

第7回アカデミック・フォーラム  
2025年3月9日（日）ハイブリッド開催  
会場：早稲田大学

## 物流を取り巻く環境変化と課題

### 趣旨

2024年4月1日より働き方改革関連法が施行され、時間外労働の上限規制がかけられたことは物流・運送業界に「物流2024年問題」として大きなインパクトをもたらしている。かねてより長距離輸送を担うトラックドライバーの高齢化や人材不足が注目されていたことに加え、時間外労働の上限規制により、走行距離の短縮やドライバーの収入減、さらには輸送能力への影響が注目されている。

日本は人口減少による労働力不足の問題を抱えながらも、EC（電子商取引）の増加により物流件数の増加や、規制緩和による事業者数の増加により、輸送事業者間の競争も激化している。加えて政府は2050年にはカーボン・ニュートラルを掲げ、温室効果ガスの排出の抑制と吸収による、総排出量のゼロを目標としており、物流・運送業界はこの目標達成にも貢献することが要請されている。

つまり物流・運送業界は、規制、需要、業界構造の変化という点で大きな課題を抱えているといえ、いかに諸課題を解決していくかが産業界および社会全体において求められていると言える。既に業界では、ドライバーの労働環境への対応のみならず、モーダルシフトなど輸送方法の改革、配送計画や取引条件の見直しなど様々な取り組みが行われている。また技術的な変革も行われている。

このような喫緊の課題について、物流、交通論、商学のそれぞれの専門領域の立場から、取引の変化と物流関連サービスのコストや水準の変化、産業界における輸送効率性の変化社会全体におけるインパクトなど、様々な議論を展開し、学際的な知見を得ることが今回のアカデミック・フォーラムの趣旨である。

日本商業学会会長 南 知恵子  
(椋山女学園大学教授)

主催：日本経済学会連合

後援学会：日本商業学会、日本物流学会、日本交通学会